

里海学習 三学期のふり返りアンケート(教師用)

【A:あてはまる B:少しあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない】

	A	B	C	D
1. 里海科年間計画を意識して計画的に実践している。	7		1	
2. 里海科でめざす児童像を意識して計画的に実践している。	6	2		
3. 体験活動が必要な場合、計画に沿って取り入れている。	6	1	1	
4. 地域の活用について				
① 地域の人材を活用して授業を進めている。	5	3		
② 地域の施設を活用して授業を進めている。	4	4		
③ 地域の環境を活用して授業を進めている。	5	3		
5. 児童は意欲的に学習に取り組んでいる。	7	1		
6. 児童の探究心は高まっている。	3	1		
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を飼い始めてから、疑問があるとすぐ図鑑などで調べるようになった。 ・似たような生き物にも興味を持っている。 ・海岸清掃の「ごみ拾い→分別」から問い(?)をもち、児童の?に沿って問題解決学習が行えた。 ・話し合う場面で、疑問や解決したいと思うことが、児童からでるようになった。 ・児童の活動の様子を見ると、興味をもって真剣な表情が見えて良い。 ・自分たちで考え、実践できることと施設や協力者がいないとできないことを、目的や内容によって自分たちで判断できるようになった。 ・興味をもった職業から「他の職業についてもっと調べたい・知りたい」意欲が高まった。 				

・「調べる→見る・体験する→聞く」の学習活動の流れが児童の思考の流れと重なった。

「聞く」ときの質問の内容、パンフレット作りの内容が充実していた。

・聞く、書く、メモを取る力が身についてきた。

△漁船の見学、釣り、塩づくりなどの体験活動ができなかった。体験活動をもっとやってみたかった。

△体験活動（漁師の仕事の見学・体験）を通して二学期はさらに職業について深めていく学習内容であるため今年度は厳しかった。

△体験活動を他教科と関連付けて有効的に行うには、目的を明確にして里海研の方々と相談していく必要がある。

→授業計画シートについて

7. 児童の理解は深まっている。

6

2

(理由)

・九十九湾水族館やリモート交流で、生き物の説明をする機会があった。

・一学期に得た「海と川はつながっている」という知識が、調べて分かった「海ごみの7割が町ごみ」という事実とつながった。

・イカの観察や解剖に興味をもって取り組んでいた。

特に、イカの解剖は休み時間に児童が進んで取り組んでいた。標本2匹のおかげでできた。

・イカのクイズづくりやイカす会の話聞いたことで、興味や理解が深まっている。

・つくモールのアンケート集計から様々な特徴を調べていた。

例えば…お客さんで19歳以下が少ない。おばちゃんのグループが多い。

・体験活動や地域の施設の見学を通して、問題解決につながっている。

・学習した内容を表現（リモート・パンフレット・パワポ）することで、それぞれが学習活動を振り返り、理

解を深めている。

・常に「目的意識と相手意識」をもって活動することができており、学習前に比べるとそれぞれの内容について自信をもって説明することができる。

・発表の場を通して理解が深まっている。

8. 成果(○)と課題(△)

○毎日の掃除やえさやり、観察をすることで生き物に対して愛情をもって飼育することができた。

○カニの脱皮やヤドカリの引っ越しの観察から、生き物の成長を実感できた。

○九十九湾水族館やお別れ会の計画・実行ができ、活動意欲や達成感を持つことができた。

○カリキュラム「ごみ拾い→ごみ調査→調べ学習」の流れは児童の思考(?)に沿い、主体的に進んでいったので良かった。

○レシピをつくモールド配布するだけでなく、アンケートをとることで次の学習に活かすことができる。
アンケートを見ることでレシピを手にとってもらったことを実感できた。

○活きたイカを用意してもらえたことで、休み時間をつかってまでも解剖するぐらい興味がわいた。

○各教科の内容に合わせた町の施設や地域の方の話を聞く場の設定ができた。
教材が町にそろっている。

○活動に至るまでの過程は大変だったが、担任の思いが各施設や担当の方に伝わって充実した学習活動ができた。

○どの活動も過去(1~5年)までの経験・知識があったおかげでスムーズに、より広く深い視点で考えることができていた。

○4年生のレシピ本や過去の学習を受け、「里海給食」のレシピ本を作成したいという声が増えた。

○アンケートの結果が良好。児童が里海活動を楽しみにしている。

△水族館の準備や生き物を返したあとの片付けが時数オーバーしてしまい、他の単元の学習時間に影響があった。

△海の環境保全を呼びかける活動(チラシ作り)をしたが、置き場所を店舗に頼むのに気が引けた。
(2年連続、しんやスーパーは2か月連続、チラシの完成度…等)

△体験活動が少なかった。

△社会科「どんなものを輸入しているのか」などは地域の人材を活用できなかった。

△下級生の活動が知れる分、うらやむ声もある…。

△二学期の取組を魅力的なものにする。(誰に、いつ、何で発信するか。)

△児童も教師も、何を学ぶのか、目的意識をもって活動に取り組む必要性。

9. 来年度へのカリキュラムの見直し案

(もっとこうしたらいいのでは?こんな活動を入れるといいよ…など何でもお書き下さい。)

一年生・・・「海で遊ぶ」を中心に年間指導計画を作成する。

一学期→海水浴 二学期→生き物の飼育(一週間程度) 三学期→生き物探し

三年生・・・総合三学期「伴旗祭りについて」→四年社会「年中行事」へ移行

代替案 → 二学期「川と海とのつながり」 三学期「環境」 四年 イカす会で発信

四年生・・・三年→四年→五年の接続が難しい。

環境→イカ→環境の印象を受ける。

四年と五年のテーマを入れ替えるか、四年をもっと環境よりにするかカリキュラムの要検討

全体 ……ICTの活用を組み込む。(発信・まとめ)

10. その他

(みんなで共有したいこと・里海研究主任に対して伝えたいこと・提案したいこと・校内研究でこんなことしてみたい…など何かあればお書き下さい。)

① GT、見学できる施設、支援体制のリスト作り

② 職員で一度体験してみたい活動(来年度の研修として)

～二学期を終えて ☆三学期に向けて～

- ・C、Dの児童を肯定的に → やや○
- ・「自分のためになったか」の数値の上昇 → △
- ・年間計画通りに学習を進める → Cの方がいる。進められない要因を聞き、3学期・来年度に活かす。
- ・体験活動を増やす → コロナで難しいことも多くあった。学習内容に必要な体験であれば交渉してみる。